



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail: daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

「ナルマダー河の子供たち」②

広島ヤクザなどと不遜なことを心の中で思ってしまっただが、とんでもないことだ。

空港でわが輩たちを出迎えてくれたのは、スワミー（お坊さま）である。インドにはさまざまなタイプの修行者がいる。全身に灰を塗った全裸の行者、ふんどし一丁で立ち続ける苦行者、オレンジ色の僧衣を纏った出家者などある。すべてのタイプを紹介することはとてもできない。

スワミーと一緒に出迎えたのは、J&R 夫妻である。平安な場所に素敵なスワミーがいて、彼らがナルマダー河にわれらを誘い出した。

わが輩の偏った印象だが、オレンジ色の僧衣を纏ったお坊さまは、何となく上品でさわやかな感じがする。このスワミーは、わが輩の固定概念から外れている。肉体労働者のように肌は浅黒く、頭髪は角刈りのようにも見えた。酒やタバコで喉が荒れているのかと疑えるほど、声はダミ声だ。やたらと威勢がよい。

スワミーは、もちろん酒タバコをやらない。

全く失礼な第一印象だが、わが輩の心に陰りが生じ、それを払拭する、あるいは払拭されるには時間が必要であった。

空港からナルマダー河まで約三時間。途中三十分ほど茶店で休憩した。

あの懐かしく美しいナルマダー河を見て驚いた。水深が浅く河底が見えている。

(これは一体どうしたことだ！)

マーンダーター島の上流にダムがある。そこで水量を制限しているようなのである。

インドール空港の北 62 キロにウッジャインという聖地がある。インド四大聖地は、ハリドワール（ガンジス河上流）、アッラーハーバード（ガンジス河とヤムナー河合流地）、ウッジャイン（シプラ川）、ナーシク（ゴダーヴァリー河）である。

三年毎にこれら四ヶ所持ち回りで、クンブー・メーラ壺祭が行われる。本年が十二年目で、最も吉祥なる“大祭”になる。

祭に欠かせないものは“沐浴”である。だから聖地には河がなくてはならない。ところがシプラ川は“河”ではなく“川”である。川幅が狭く浅い川である。十二年前（2004年）は45度の猛暑の中250万人が沐浴した。

(あれは沐浴ではなく、行水だよ)

そこで州政府は考えた。水路を建設しナルマダー河のダムの水をウッジャインまで導いたのである。今年は壺祭のために送水量を増やした。その結果、河底が見えるほど水量が少なくなった。

(わが輩のナルマダー河のイメージがぶち壊しだよ)

ダム建設の時に反対運動がおこった。貧しい山岳民族や農民が十分な補償もなく立ち退かざるを得なかったからである。これは功罪の“罪過”だが、“功績”がないわけではない。

われら高年期探検隊がドーラヴィーラ遺跡を訪れたとき、水路を見た。あれはナルマダー河から引っ張ってこられた全長 700 キロに及ぶ水路である。あの乾燥地帯に水が供給されるようになった。女性は何キロも先から水壺を頭に載せて水を汲みにいくのが日課であった。水はそれほど貴重なものであった。ところが、どうだ。今は水が漏れていても止めようとしなくて、とあの地方の人は嘆く。

静寂で清らかなナルマダー河も、朝から晩までドドッと重機の音が響く。ウッジャインで沐浴した人たちが、さらにナルマダー河で沐浴するためにやって来る。十二年前の壺祭では、島内巡礼が渋滞し大混乱が発生した。コレラも流行った。それに対処するために大駐車場と新たな迂回の巡礼路を敷くためである。水深が浅いので工事がし易い。

通常は対岸から島までは橋を渡り宿泊施設のアシュラムに向かう。歩いて 20 分程の距離である。ところが、われらは重いスーツケースを持っているので歩けない。渡し船を利用すると楽だが、ガート (階段) を下りて船着き場までは汗かきかきの重労働であった。

やっと船に乗りホッとしたが、対岸にあるアシュラムを見上げて、またゲンナリした。島の中腹にある。

(あそこまで、また重い荷物を運ぶのか。ご勘弁を)

わが輩の心配は杞憂であった。

薄暗くなった河岸に、数名の人影が浮かんでいた。大きな影と小さな影である。彼らが荷物を運んでくると言う。

(内心ホッとしたよ)

でも、あの小さな影たちは何者なのだろうか。さあ、明日から小さな影たちとの感動の物語が始まる。乞うご期待。